

## 第6章 研究のまとめと今後の課題

### 第2節 今後の課題

#### 6.2.1 広い視野にたった情報教育の推進

授業は、情報活用能力の3つの目標のうち「情報社会に参画する態度」に関わる情報モラル、しかも個人情報保護という全体から見るととても小さい領域について指導した。もっとも、今回の授業は、ホームページから情報を発信するという、「情報活用の実践力の育成」、筆者の操作を見るだけではあったが、データ処理の仕方を学ぶ「情報の科学的な理解」を含むものではあったが。

子どもたちに小学校段階でつけさせておくべき、情報モラルについては、今回の個人情報以外にも、数多にある。それを教育課程にどう位置づけ、どのように指導計画をたて、実践していくか、非常に大きな問題ではあるが、考えていかなければならないことである。子どもたちにとっては、教師の話だけでは、なかなか心には染みていかない。何かしら教材を作り、子どもたちに体験を通して指導していくことが大切であると考え。そのため教材やワークシートなどの情報の共有化が望まれる。

情報教育が学校現場に定着したとは言いがたい。今後、指導計画や教材などを整備され、いかに情報教育を適切に推進していくかが課題である。

#### 6.2.2 学校と家庭との連携

近年のIT機器の普及により、パソコン、携帯電話などIT機器が身近なものになり、小学校段階においても、子どもたちのあこがれのグッズになり、所有する家庭も増えている。便利の陰には、必ず怖さが隠れている。便利さのみに興じ、しっかりと知っておかなければならない怖さがなおざりにされていたのでは、子どもたちが、ネット社会の闇の落とし穴に陥ることもでてくるであろう。

大切なのは、家庭も学校も、このような情報機器には「使い方によっては危ないものがある。」ということを自覚する必要がある。

筆者は、この調査結果を持って、調査に協力していただいた家庭にその危険性を訴えた。今後も自校で、また地域で地道でも、広報活動をしていこうと思っている。

一方、筆者は教職員として、直接子どもの指導を通して、また、学校通信、学級通信、学校ホームページなどを通して、情報教育、とりわけ情報モラル教育については、意図的、計画的に学校教育で実施していくように進めていきたい。

特に情報モラルについては、家庭だけでは指導しきれないところがある。しっかりとやっている家庭、全く頭にもない家庭と様々である。IT化の波はそんなことにはおかまひなしに押し寄せて来る。学校と家庭が協力して、指導していく体制を整えていくことが課題である。

### 6.2.3 教職員の意識

「情報教育って何ですか。」と尋ねたら、「コンピュータを使って授業することですよね。」と答える先生は、たぶん、多いただろう。特に小学校では、教科に盛り込まれておらず、教科書もないことから、「情報教育 = コンピュータを使っての勉強」という図式があると思う。これは間違いではないと思うが、情報教育はコンピュータを使うだけでなく、広く情報活用能力を育成することである。また、その中にある情報社会へ参画する態度では、情報に対する道德面、倫理面なども指導していかなければならない。

「学校は世間より10年遅れている」などという皮肉めいた言葉を聞いたことがあるが、情報教育については、10年ではスパンとして長すぎる。教職員として、常に情報に関わる今日的な課題はどんなものがあるかということに、目を向けていかなければならない。

このように、教職員が情報教育の必要性に対する意識を向上させていくと共に、氾濫しすぎる情報、危険性に子どもたちがさらされているという危機意識を持つようになるということが課題である。